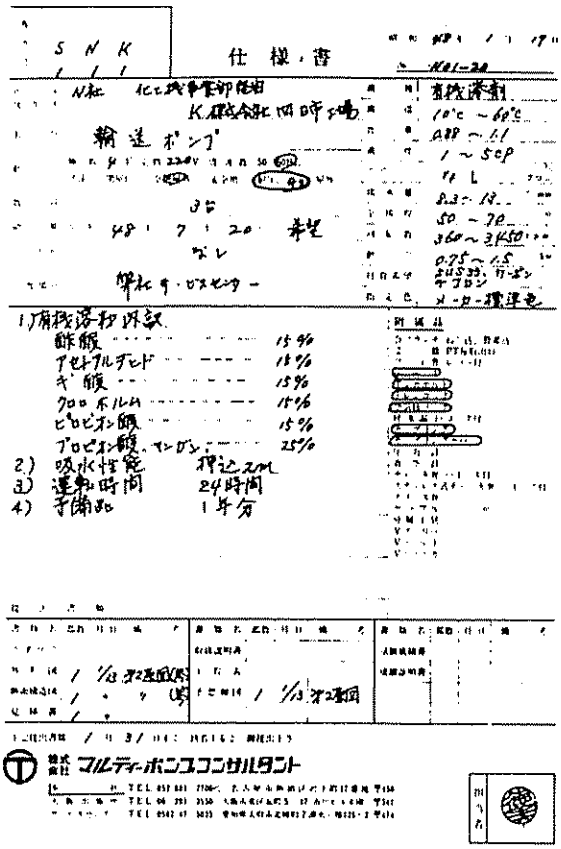
特殊液用ポンプ選定のために必要なデーター

1) マルティー仕様書例



1) 取扱液の名称（普通に呼ばれている名称）

2) 液の主な腐蝕物質

3) p^H 値

4) 取扱液の温度（最高（蒸気圧）と最低）

5) 比　重　　最高（含有量）と最低）

6) 粘　度　センチポイズ / センチ、ストークス（最高と最低）

7) 溶存空気量　（自由状態と飽和状態）

8) 既設ポンプで使用された主な材質と腐蝕の有無。

9) ポンプの有効NPSH

10) ポンプの運転条件（連続運転か、断続運転か）

11) 経済的な見地からみたポンプの要求寿命、時間（何年分の予備品が必要か）

2) 金属の腐蝕作用とその防止法の目安

A) 液　温　　温度が高いほど腐蝕がおこりやすい　又、p^H値が上がる。

B) 液の種類　　濃度、成分、p^H値

p^H：14 …… 7 …… 3

← アルカリ → 中性 ← 酸性 →

C) 材料の選定

なるべく異金属を避ける。

（固有電位…白金＋0.33V、ステン－0.08V、銅－0.17V、鋳鉄－0.65V）

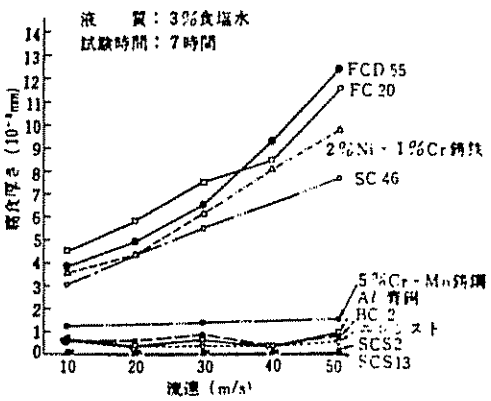
D) 溶存酸素量

多いほど腐蝕がおこりやすい。

FC20、流速30m/secで溶存酸素を5PPm含んだ場合 7^{10-2} mm腐蝕する。

含まない場合 0.5^{10-2} mmの腐蝕となる。

E) 流　速

はやいほど腐蝕がおこりやすい。

（図62）各種材料の腐蝕厚さと流速